

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203295		
法人名	有限会社パルティール		
事業所名	グループホーム オリーブガーデン		
所在地	倉敷市亀山564-1		
自己評価作成日	平成 25年 12月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=3370203295-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25年 12月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者が人格を尊重され、抑制がなく安心して生活が出来るよう配慮、工夫をしています。
 環境:各居室はゆったりして広さがあり、各居室にトイレ、洗面、クローゼットを備えている。プライバシーを大切に、人格を尊重している。
 職員:常に明るくチームワークが良い。介護力も質が高く、優秀でマナーもよい。
 地域との関係:地域の協力がとてもよく、各種行事に参加したり、来て下さったりとても友好的である。
 食事:献立、調理など全職員が入居者の健康、嗜好、食事形態をふまえた上で工夫をこらし、家庭的でおいしい食事を提供している。
 ご家族:絶えず連絡を取り、良い関係を構築し理解を得ている。
 医療:主治医の先生の協力がよく、医療が適切で対応が迅速である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

オーナーと建築家が細部にまでこだわって造った建物になっており、おしゃれな外観、中は高い吹き抜けの天井、木の梁、大きな窓と明るく開放的な造りとなっている。絵画や壁画も多数飾られ、品位を感じさせる落ち着いた雰囲気もある。事業所と地域住民とのつながりが強く、幅広い年代の方々との交流も盛んで、協力体制も築けている。協力医も在宅医療に理解が深く、医師、看護師、経験豊富な職員と連携し、看取り支援を実施している。利用者や家族からの信頼も厚い。日々の食事は3食共に手作りで提供している。献立や形態は職員の工夫で健康的で家庭的な食事になっている。開設して10年が経過し、利用者は身体的に重度化してきているが、職員の手厚い介護によって安心して暮らせる事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員ともに理念を理解し、よく実践している。	事業所理念はスタッフルームに掲示している。「第2の我が家」をモットーに大きな施設ではできない、家庭的な雰囲気の中でその人らしい暮らしの実現に向けて、日頃から利用者の声に耳を傾けるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から大事にされ、大変よく協力していただいている。施設代表が昔からここに住んでいて、日頃から仲良くしているので地域との付き合いは最高に良好である。	近隣の社会福祉法人施設や地域の様々な年代の住民との交流が盛んである。子ども会、老人会、亀龍会のメンバーが地域活動の一環として事業所の行事に参加してくれる。また、利用者も地域の行事に参加している。実習生の受け入れや、障害者施設との交流もある。	事業所から歩いて行ける距離に、保育園が開設したという情報をもらったそうです。利用者も子ども達との交流が癒しの時間になると思います。今後交流の輪が広がっていくことを期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館や近隣の地域の事業所などで講演会や座談会、勉強会などを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話題を職員で話し合ったり、またご家族に報告したりしてサービスの向上に役立っている。	2か月に1度開催している。参加者は、地区委員、公民館館長、亀龍会会長、元民生委員、地域住民、高齢者支援センター、家族代表、行政などのメンバーになっている。事業所からの事業報告を行うと同時に、地域の情報交換の場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の高齢者支援センターとは日常的に連絡をとっており、また運営推進会議にも毎回参加していただき、良い関係が築けている。	市の介護保険課からの運営推進会議への参加、地域包括センターからは毎回参加がある。情報交換や、助言をもらうこともある。利用者には生活保護受給者がいるため、社会福祉事務所のケースワーカーとも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全くないといっても良いと思います。施設も職員もよく承知しており、拘束のない介護を実践するため介護力の向上に日々努めている。	日中は玄関や窓も施錠していない。ユニット間も自由に行き来できるようにしている。身体的なものだけでなく、言葉による拘束にも配慮している。職員は勉強会を実施すると同時に、お互いに気になる所を注意し合える関係づくりができており、見守りの能力を高めるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常時行うカンファレンスにおいても良く話し合っており、職員同士気を付けている。介護に過重なストレスをためないよう悩みを話し合ったり、チームワークを大事にするようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症高齢者はお金の管理など身の周りのことで権利擁護の必要性がある方がよくいらしゃいます。都度施設側も職員も理解を深め、その活用についても支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は十分に行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を毎年開催して意見、要望など伺っている。また、家族の訪問がとて多く日常的にいろいろ話し合っている。家族が訪問しやすく意見の言いやすい施設でありたいと常にオープンな雰囲気になっている。	年に1回家族会を開催し、色々な意見を聞く機会を設けている。面会時には利用者の様子を報告し、家族の希望や要望を聞いている。また、提供されている食事の試食や、家族参加の花見会を催したり、手紙や写真などで生活の様子を知ってもらおうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の代表との話し合いを常時行っており、職員の意見をきいている。もっと多くの提案がほしいと思っている。	カンファレンスで出された意見を、各ユニットリーダーと計画作成者の4名で取りまとめて、管理者に報告している。開設10年を迎え、勤務年数が長い職員も多く、斬新な意見や要望が少なくなっているが、事業所内が安定している証だと管理者は受け止めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生きがいをもって働けるようできる限りの配慮をしている。職員の希望をよく聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修をよく行うよう努力している。看護師による勉強会は特によくやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はよくやっている。他の事業所もよく訪れるし、介護、医療に関する悩みの相談をよくしており、情報交換もよくできている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は環境の変化で不安になったり、混乱したり落ち着かなかったりします。職員はあんしんして生活していただくために創意工夫しながら信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時にご家族はどうしても申し訳ない気持ちと後ろめたさがあります。これまでのご苦労とか悩み、要望をしっかりと聞いて安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のお話をしっかり聞き担当していたケアマネージャーと連絡を密にとりながらご本人、ご家族にとって最適な選択になるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がご自分の家にいるのと同じような気持ちになり、持てる能力をしっかりと生かして自立した生活が継続できるよう職員とともに相互協力し合って生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護には家族の協力がとても大事ですし、またご家族も職員とともに介護に関わり、喜び、難しさを共有していただき、達成感のもてる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人がよく訪れている。また、ご家族との外出がたびたびあり、以前の生活の継続がスムーズにいらっていると思う。	友人や知人、家族、親せきの訪問がある。家族の協力により一時帰宅をしたり、外泊や旅行に行ったりすることもある。また、お墓参りも家族と一緒にいく利用者が多い。利用者自身の親への面会に職員が付き添って行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあうような関係になるよう職員は配慮しながら良い共同生活になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中に培った関係で、その後の本人、ご家族のご様子に気を配っている。相談にのり、必要な援助をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族、在宅時のケアマネージャーなどからこれまでの暮らし方を伺い、本人の立場に立ってどのような暮らしを望んでおられるかを検討している。	日常会話のやり取りの中で利用者の思いや希望をくみ取っている。誕生日には本人の希望を聞き、職員と一緒に外出したり、宝くじを買いに行ったりしたこともある。本人や家族の要望を反映していくため、職員間で情報を共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、在宅時のケアマネージャーなどから情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前及び入居後において1日の過ごし方、心身の状態、有する力などについて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前にアセスメントをしっかりと職員、ご家族、できれば本人と会議を持ち、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネージャーが主となり、プランを作成している。家族宅への訪問や手紙で状況を報告して家族の意見を聞き、プランに反映させている。協力医、看護師とも連携を持ち、プラン作成時にはカンファレンスを開いている。往診時に薬剤師も来所するため、薬についての意見も反映している。ケアマネージャー以外の職員も情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践など全て記録している。職員は情報の交換に努め、介護の実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりニーズが違うので、穏やかで安心して生活していただくために個別の柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーでの買い物、近所のお宅への訪問、お庭の見物、落ち着いた住宅地での散策など豊かな暮らしになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所の関係はとても良好で本人、ご家族への医師の対応も良く、適切な医療が行われている。	利用開始時は希望するかかりつけ医への受診を支援してきたが、今は2週に1回、協力医の往診対応がほとんどである。他科への受診は家族にお願いしているが、場合によっては看護師が受診支援を行っている。	今後、訪問歯科利用を準備しているとのことです。歯科医や歯科衛生士による口腔ケアや、嚥下体操などの指導を受けてみてはいかかでしょうか。利用者の高齢化と身体的重度化に伴い、嚥下の状態が悪くなっているように思われます。事故の予防のためにも、取り組みの検討を期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職員は良いチームワークで情報交換は上手くできている。医師とも連携がよく出来ていて、適切に医療が提供できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先の医師やソーシャルワーカーなどと連絡をとり、状態の把握に努めている。退院時は医師など病院側のスタッフ、そして事業所の管理者、看護師、ケアマネジャー、薬剤師などと会議を持ち、退院後のケアについて話し合っています。医師への情報提供も速やかにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の考えを書面で説明しています。重度化した時は担当の医師、ご家族、管理者、看護師、ケアマネジャー、介護職員などと都度説明、相談しながら対応を検討している。	本人や家族の希望に添えるようにしている。協力医や事業所の看護師、同法人内のデイサービスの看護師、職員で協力し、看取り支援を実施している。色々な選択肢を医師から説明してもらい、利用者、家族にとって、最善の方法を選んでもらっている。職員には看護師から色々説明を行い、心のケアも配慮している。看護師は積極的に終末期ケアについての勉強会に参加している。	看取りの実施となると、家族は精神的な負担も大きくなると思われませんが、協力医による色々な選択肢の説明を受け、安心することができています。職員の質も高く、生活面の支援、医療面の連携など、充実した環境になっています。利用者や家族にとっての「終の棲家」となるように、今後も看取りの継続をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導で応急手当や初期対応の訓練をしている。医師、看護師と連絡をとりながら適切に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災対策の中に位置づけられ、協力関係が出来ている。事業所でも年2回、防災訓練を行っている。	年に2回、夜間想定で実施している。消防署からは、消火器使用の練習、非常ベルの有効な使用方法の指導を受けた。地域の協力体制も確立しており、職員がの防災訓練に参加し、土嚢作りなどの体験をしたこともある。	地域の方との連携体制は確立されつつあります。今後は事業所内のことも見直してみてもはどうでしょうか。緊急連絡網の予行演習をまだ実施されていないという事でしたので、1度実施してみてもいかがでしょうか。メール配信なのか、電話なのか、日中、夜間など想定し、事業所に一番適した方法の確立を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の建物の設計がプライバシーに配慮したものになっている。各部屋にトイレ、洗面所を配し、ゆったりした環境になっている。職員の言葉かけ、マナーにも人格を尊重した対応をするようにしている。	職員は接遇マナーの研修を受けている。管理者からも常に品性を持って利用者と接するように折に触れて話をしている。各居室に洗面所、トイレが設置されており、利用者のプライバシーに配慮した造りとなっている。職員は利用者の居室に入る際は、必ずノックをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いや希望を遠慮なく、自由に表現できるよう、職員は利用者の声を傾聴し、全てを受け入れる姿勢で接するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大きな流れはあるものの、1日の介護の決まりごととは作らず、1人ひとりの様子を見ながら希望に添った生活になるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の方は身だしなみが難しくなってきます。その人らしくあるために洗顔、整髪、お化粧品、服選びなど身だしなみを整えるよう援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、食事形態などを考慮しながら職員が献立、買い物、調理、片付けなど利用者と一緒にしています。できる力を活かしながら楽しい食事になるよう心掛けています。	3度の食事は、職員の手作りになっている。献立も職員が考え、非常に家庭的な内容になっている。毎日利用者も一緒に買い物に行き、新鮮な食材を使っている。近所の方からの差し入れもあり、旬の材料を使うことも多い。職員と一緒に手作りおやつを楽しんだり、外食に行く機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、食事量など記録し、栄養バランス、水分量などチェックしています。医師、看護師などと相談しながら一人ひとりの状態に合わせて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。必要な時は歯科医に相談することもあります。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトレイがあるため遠慮なく氏yろうしている。失敗が少しでもないように早めの誘導を心がけています。おむつの使用を少しでも遅らせるよう支援しています。	各居室にトイレがあり、プライバシーが守られながら、その人その人に合った支援ができています。できるだけトイレで排泄ができるように、声かけやトイレ誘導を実施している。医師から指示があれば、排泄内容を報告している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は器質的にも便秘が多いと思います。飲食物の工夫や運動、薬など個々にあった予防対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの生活習慣を大事にし、希望に添った入浴を楽しんで頂いています。体を清潔にし、快適な生活になるよう支援しています。	基本は週に3回実施している。日中に実施することが多いが、希望があれば、夜間入浴の対応もある。浴室が広く、気の合う利用者同士と一緒に入浴することもある。入浴剤を使ったり、季節によっては、菖蒲湯やゆず湯にすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や健康状態に合わせて横になったり、眠っていただいたりしています。室温に配慮したり、静かな優しい音楽をかけたり、快適に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局の薬剤師が薬の管理をしています。薬の内容は看護師、介護職員ともに良く理解しています。間違いなく、指示通り服薬できるよう介護職員は厳重に援助しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり、草取り、ほうきでの掃除など生き甲斐でされています。また、洗濯物を干したり、たたんだり食事の後片付け、食器洗いなど家事を毎日楽しんでしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、できる限り近所を散歩しています。テレビを観たり、新聞に載ってたりしたところへドライブによく出かけます。また、年に1回、バスで遠出します。外出は気分が変わってとても喜ばれます。	天気の良い日には、毎日のように近所へ散歩に行っている。庭やウッドデッキでくつろいだり、お茶会をしたりしている。利用者の希望で近所のドラッグストアへ職員と一緒に買い物に行くこともある。法人内のデイサービスの車でドライブに行ったり、家族と共にバス旅行で県外まで行くこともある。OB職員の協力もあるのが頼もしい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金は預かっていません。しかし、買い物は楽しいので援助しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたり、かけたりはとても楽しいので自由に使っています。手紙は年賀状をだす援助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同のスペースには絵画、花などを配し、高齢者の方がホッとするような空間作りを心掛けています。幼稚な感じにならないよう気を付けています。	リビングには季節の花が生けてあり、窓から見える田んぼや風景で、季節を感じる事ができている。畳コーナーがあり、仕切りカーテンを閉めると、往診時の診察など、プライバシーが確保できる空間として使うこともできる。キッチンからは玄関ホールまで見渡すことができ、利用者の動きを把握でき、安全に配慮された造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースがあったり、ソファ、ベンチなどいろいろホッとするスペースが各所にあります。職員も介護負担感の軽減にホッとしていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が本人のこれまでの生活に配慮して、居心地良く過ごせるよう工夫して下さっています。それぞれの個性があって感心させられます。どのお部屋のステキです。	居室には、トイレ、洗面所、クローゼット、ベットが備え付けとなっている。自宅から仏壇や使い慣れた身の回りの物など持ち込むことは自由である。家族の写真や趣味の手作り作品などが飾られており、利用者それぞれ、個性的な部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりできることはしっかりしていただき自由ではありますが、安全でないといけないので、わざとらしくない見守りが確実にできるよう工夫された造りになっています。		